

平成 30 年度 資源評価調査報告書（資源動向調査）

都道府県名	岩手県	担当機関名	岩手水技セ
種名	サワラ	対象水域	岩手県沿岸水域

1. 調査の概要

岩手県の主要港における水揚量集計値、および産地卸売市場における場内体長測定結果に基づき漁獲動向を評価した。

2. 漁業の概要

- (1) 漁業種類： 定置網主体
- (2) 漁獲動向： 本県におけるサワラの水揚量は2005年に急増した以降、年変動はあるものの2004年以前を上回る水準で推移している。2011年は東日本大震災の影響により大幅に減少したが、2012年には震災前の水準まで回復している（図1）。サワラの漁期は5～11月で、盛漁期は5月および8～11月である（高橋，2008）。2018年の主要港における定置網水揚量は204トン（前年比94.3%、過去5年平均比61.4%）で、時期別では10～11月に増加した（図2）。尾叉長60～100cmの3歳以上魚が漁期を通じて水揚され、5月に45～55cmの2歳魚、10～12月に45cm以下の1歳魚も水揚された（図3）。

3. 生物学的特性

- (1) 分布域： 東シナ海から日本海、紀伊半島以西の太平洋および瀬戸内海
- (2) 成長： 満1歳で尾叉長40cm前後、満2歳で50cm前後、満3歳でオスが55cm前後、メスが60cm前後（東シナ海系群）
- (3) 産卵期等： 産卵海域は東シナ海と黄海、産卵期は5～6月（東シナ海系群）
- (4) 成熟年齢： 雄雌ともに1歳の一部が成熟に達し、2歳以上では大部分が成熟する（東シナ海系群）。先行研究において、本県で夏季以降漁獲されるサワラは性比がメスに偏ることが報告されている（高橋，2008）。
- (5) 被捕食関係： 稚魚期以降は魚食性（東シナ海系群）
- (6) その他の生物学的特徴： 岩手県で漁獲されるサワラは、漁獲動向および標識放流の結果から、日本海に分布する東シナ海系群が津軽海峡を通過して来遊するものと考えられている（戸嶋ら，2013）。水揚の増加した2005年以降、本県水揚と日本海北区（青森県～石川県）の水揚量には正の相関が見られ、特に8～12月に高い相関が見られる（図4）。

4. 資源状態

過去15年間における水揚量の最小値および最大値の間を3等分した基準値に基づくサワラの2018年の来遊量水準は中位、過去5年間の傾向から動向は横ばい傾向にあると判断された。

5. 資源回復に関するコメント

資源回復について、本県水揚はサワラ東シナ海系群資源と関連があると考えられるため、東シナ海系群の管理方策を確実に実施していくことが重要と考える。本県水揚は高い水準にあるものの年変動が大きく、海況等の影響により来遊量に変化する（高橋，2008）。このため、今後もモニタリング調査を継続し、来遊資源の動向について注視していく必要がある。

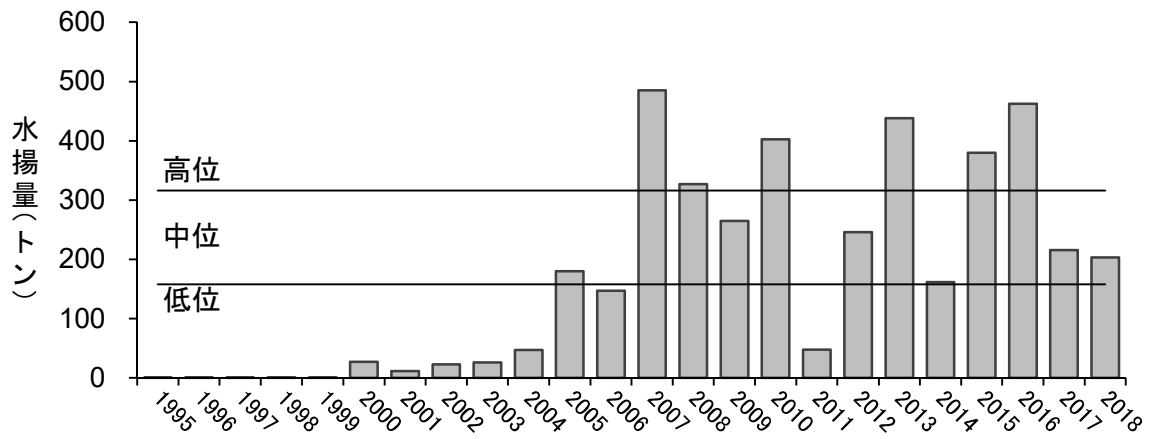


図1 岩手県主要港における年別水揚量の推移

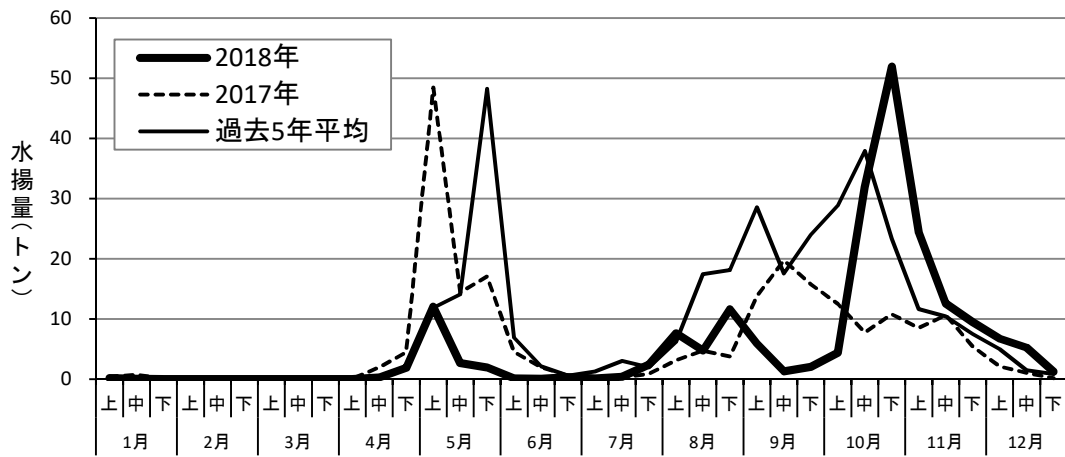


図2 岩手県主要港における旬別水揚量の推移

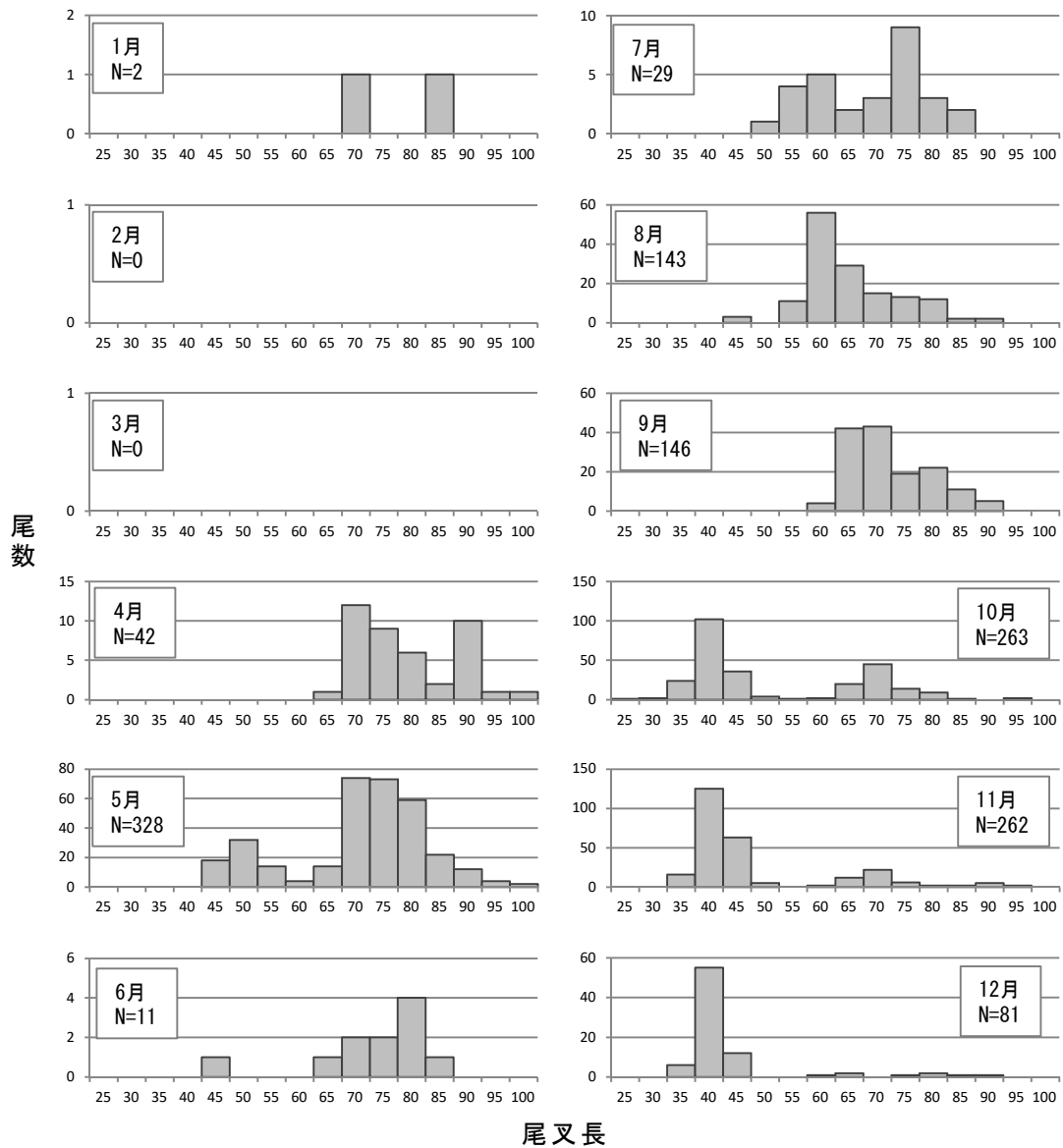


図3 定置網におけるサワラ尾叉長組成(cm)

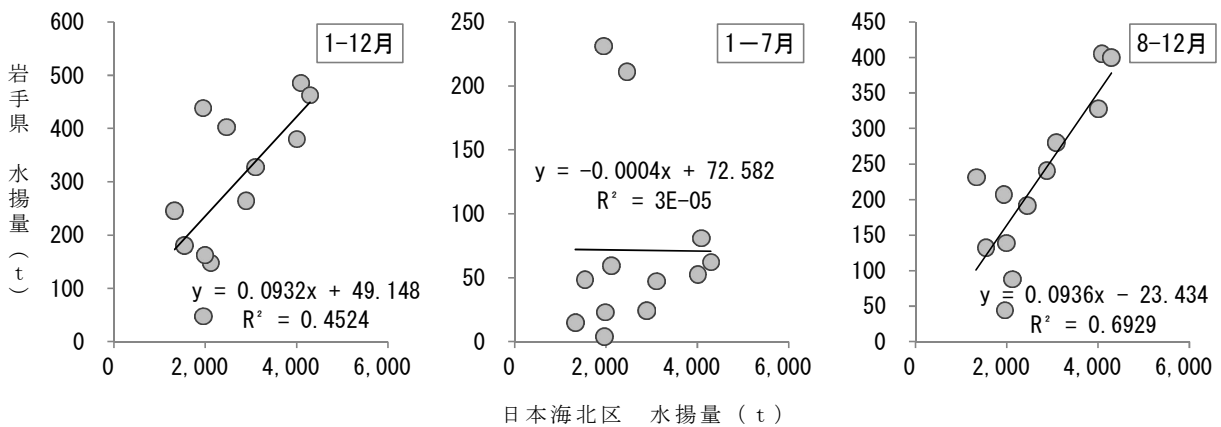


図4 サワラ岩手県水揚量と日本海北区水揚量(2005~2016年)

平成30年度 資源評価調査報告書（資源動向調査）

都道府県名	宮城県	担当機関名	宮城県水産技術総合センター
種名	サワラ	対象水域	宮城県沿岸水域

1. 調査の概要

宮城県総合水産行政情報システムによる県内主要9産地魚市場での水揚状況（速報値）と石巻魚市場での水揚物の体長測定から漁獲動向を把握した。

2. 漁業の概要

宮城県におけるサワラの漁業種別水揚量の推移を図1に示す。2011年は、東日本大震災の影響により23トンと大きく減少したものの、2012年以降は増加傾向にあり水揚量の変動があるものの中位を維持している。2018年は2017年に対して減少し109トン（前年比64%）となった。漁業種類別で見ると、2018年の定置網による水揚げは84トンと全体の77%を占めている。また、2018年における定置網の水揚げピークは、11月であった（図2）。2018年に石巻魚市場で測定した4月から11月までのサワラ尾叉長組成を図3に示す。定置網の尾叉長組成は、4月は68～85cmの範囲にあった。10～12月は36cm～92cm台の二峰型を示し、モードはそれぞれ44cm、73cmであった。小底の11～12月の尾叉長組成は35～49cmの範囲にあり、モードは43cmであった。沖底の11～12月の尾叉長組成は35～79cmの範囲にあり、モードは42cmであった。

3. 生物学的特性

サワラは、日本周辺では東シナ海から日本海、紀伊半島以西の太平洋および瀬戸内海に分布し、特に西日本では重要な魚種の1つとなっている。宮城県では2000年以降定置網による水揚げが増加している。

サワラは、1998年以降日本海における漁獲量が増加しており、その要因の一つとして日本海の海水温と深い関係があるとされている（為石ら（2005年））。また、日本海北区と宮城県定置網の漁獲量に正の相関（1995～2016年）があることから（図4）、日本海の海況変動に伴う回遊経路の変化により、日本海から津軽海峡を通過して春季と秋季に本県沿岸水域へ来遊するサワラが増加しているものと考えられる。

4. 資源状態

本県のサワラ水揚量は変動はあるものの増加傾向にある。サワラ東シナ海系群の資源状態は高位水準にあることから、本県への来遊量も同様に推移しているものと思われる。

5. 資源回復に関するコメント

サワラ東シナ海系群の資源評価に基づく資源管理方策の提言に基づき、持続的な利用を図ることが必要である。

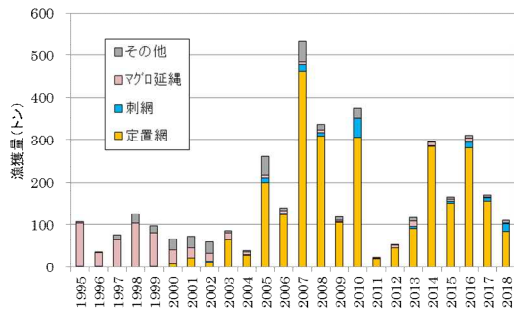


図1 サワラ水揚量の推移

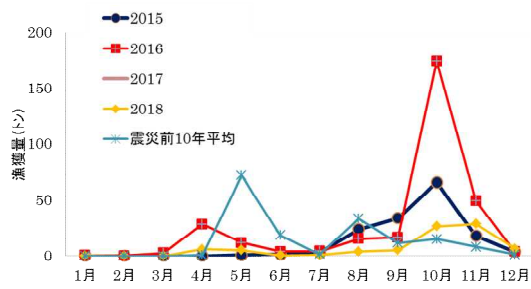


図2 定置網によるサワラ月別漁獲量の推移

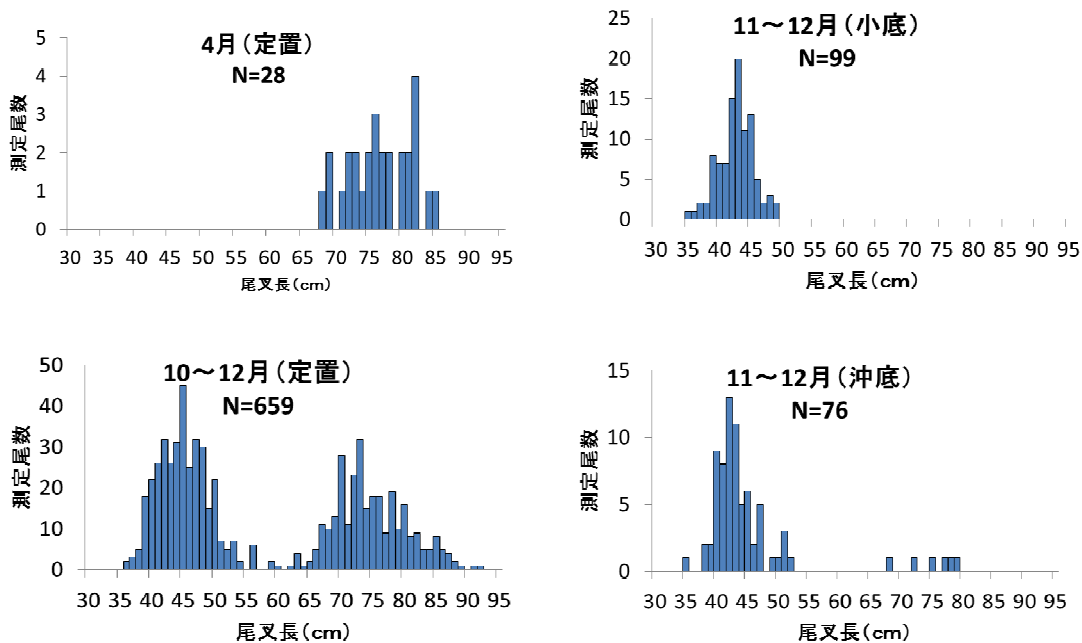


図3 2018年の石巻魚市場におけるサワラの漁法別尾叉長組成

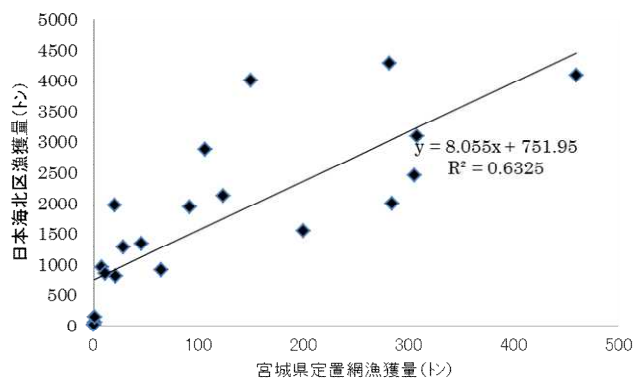


図4 日本海北区と宮城県定置網のサワラ漁獲量の相関(1995~2016年)